

建築人

2022

8

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.698





建築人

2022.08 No.698

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「富田のコートハウス」2020年

第65回 大阪建築コンクール大阪府知事賞部門大阪府知事賞 受賞作品
設計：大西憲司設計工房
施工：西友建設
撮影：福澤昭嘉

高槻市の住宅密集地の中にある旗竿敷地に建つ、プライバシーとセキュリティーを確保したコートハウス。中庭を中心に庭を点在させ、それぞれの場所からシークエンスを楽しめ、庭に植えられた木々や、光・風・雲の動きが感じられ、気持ちよく暮らせる住まい。

2 大阪こちエエ

4 第14回建築人賞発表

8 Gallery 建築作品紹介

「サントリー天然水北アルプス信濃の森工場」

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店

「西宮商工会館」

設計・監理：三弘・平田建築設計共同企業体

(意匠・構造)：三弘建築事務所

(設備・外構)：平田建築設計(代表企業)

施工：新井組

「Café NoHo」

設計：石橋清志建築設計事務所

施工：藤木工務店/象・ファクトリー

11 宮崎名誉会長追悼

12 動静レポート

14 大阪府建築士会 ビジョン2025

13 Topics

16 インフォメーション・事業案内

18 記憶の建築

「津田塾大学図書館」1954年

1950年代モダニズム建築の切り拓いた世界 / 松隈 洋

建築人 No.698 2022年8月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門

編集 建築情報部門『建築人』編集部

部門長：荻窪伸彦(編集人代表)

委員長：松下典央

編集人：飯田英二 梅田武宏 笠井志保 河合哲夫

茂籠一之 大松俊祐 橋本頼幸 牧野隆義

三谷勝章 武藤優哉 若江直生

事務局：山本茂樹 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和4年8月1日発行

発行人：会長/岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961

大阪こちエエ

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

昨年とは夏とは違い、今年は新型コロナウイルス蔓延による行動制限は政府からは出されない予定だ。大阪府で唯一の村である千早赤阪村にも多くの人々が興味を持って訪れる場所がある。今回は日本の美しい原風景が今も残る「下赤坂の棚田」を紹介したい。

現在の千早赤坂中学校の裏手には、楠木正成の戦の地として知られた下赤坂城跡がある。この城は、南北朝時代の武将である楠木正成が、後醍醐天皇を迎えるために急いで築城したといわれている。城としての遺構は残存していないが、付近には「甲取」や「矢場武」などの城を連想させる地名が残っており、とても見晴らしの良い場所で棚田を一望できる。棚田とは段々畑ともいわれ、傾斜地の稲作のためにつくられた耕作地で、この棚田は約250枚の田んぼで構成されており、1999年に農林水産省の「日本の棚田百選」に選ばれている。

今年は、棚田夢灯りアートフェスティバルが開催される予定で、棚田に3000個の灯籠を並べるイベントだ。これからは田畑などを「生きがい農業」として、高齢者や障害者などが一部を担えるとして注目されている。農業と風景を考える契機にしていだければありがたい。

第14回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、2022年8月には第698号を数えました。本会の会員にとって重要な情報提供を行うとともに、建築作品発表の機会を設け、建築技術の普及や会員の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は「建築人」のGALLERY頁に掲載された全作品の中から特に機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰することで、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、「建築人」のプレゼンスをより高めていくことを意図して創設された賞です。

●審査経過

審査は公平性を重視するため、主に関西以外を拠点として活躍する建築関係者、学識経験者をお願いしています。第14回も建築ジャーナリストの磯達雄氏を審査委員長としてお迎えしました。

今回の審査は2021年に掲載された作品33点が対象となりました。一次審査は誌面より一般・住宅部門を合わせて計14作品を選出、その後、設計者から追加で提出された詳細資料をもとに二次審査（一般現地審査・住宅詳細資料）を行い、最終的に建築人賞2点、奨励賞2点、佳作4点が選出されました。

入選作品は、いずれもその機能性、デザイン性、社会性などが高く評価されたものですが、これらを表彰し公表することによって、社会に対して建築の魅力や価値を発信し、建築文化の醸成に寄与できるものと考えています。また今後より多くの方に参加頂き、建築人賞が大阪から魅力ある建築情報を発信する動機として成長発展していくよう祈念しています。

建築情報部門長 荻窪伸彦

実施要項及び経過

●対象作品

会報誌建築人2021年1月号～2021年12月号「GALLERY」掲載作品33点

●審 査

第一次審査（33点から14点選出） 第二次審査（8点選出）

●表 彰 式

2022年度定時総会・式典 席上 日時／2022年5月18日(水) 会場／KKRホテル大阪3階

●入賞作品

建 築 人 賞	タクマビル新館（研修センター）	2021年7月号掲載
	印南の廻楼	2021年11月号掲載
建築人賞奨励賞	ちえの森ちづ図書館	2021年11月号掲載
	山芦屋の家	2021年7月号掲載
建 築 人 賞 佳 作	ANNEX TSUTENKAKU TOWER	2021年9月号掲載
	日本圧着端子製造 大阪技術センター別館 -Kahdeksankulmio-	2021年10月号掲載
	姫路の家	2021年2月号掲載
	4棟の家	2021年12月号掲載

建 築 人 賞 設計者に賞状および記念トロフィーを授与、建築主・施工者に賞状を授与

建築人賞奨励賞 建築主・設計者・施工者に賞状を授与

建 築 人 賞 佳 作 建築主・設計者・施工者に賞状を授与



建築人賞記念トロフィー
ガラスアーティスト 佐久間靖作

審査委員長 磯 達雄



1963年 埼玉県生まれ
1988年 名古屋大学工学部建築学科卒業
日経BP社入社『日経アーキテクチャ』編集部勤務(～1999年)
2001年～ 桑沢デザイン研究所非常勤講師
2002年 フリックススタジオ共同主宰(～2020)
2008年～ 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科非常勤講師
2020年～ Office Bunga共同主宰

審査総評

建築人賞の審査を務めるのは、昨年に続いて2度目となる。今回は新型コロナウイルス感染症の蔓延状況から現地審査やヒアリングは行わず、すべて書類のみによる審査であった。今回も住宅部門については昨年と同じく書類審査となったが、一般部門については最終選考の段階で現地審査を行った。これが実現できたのは、建物のオーナーや管理者の協力によるところが大きい。感謝したい。

あらためて審査のプロセスについて説明する。まず『建築人』のギャラリー欄誌面をもとに、1次審査を行う。今回は2021年1月号から12月号までに掲載された33作品(一般部門24件、住宅部門9件)が対象となった。ここから一般部門8件、住宅部門6件を選出し、それぞれについて詳しい資料を設計者から提出してもらった。

送られた資料を見て、2次審査を行う。住宅部門はこの時点で最終審査とし、建築人賞1点、建築人賞奨励賞1点、佳作2点のそれぞれを選出した。一方で一般部門については、前述の通り2次審査で4点に絞った後に現地審査を行なった。現地審査では、設計担当者による解説を聴きながら、建物を実見した。

現地審査の有無で選考結果が変わった

のかどうか。それは答えようもないが、より自信をもって選ぶことができたのは確かである。

新型コロナウイルス感染症が広まってから、あつという間に仕事の打ち合わせも学校の授業もインターネットの回線を通じてリモートで行われるようになった。感染を防止できるだけでなく、移動に要する時間や交通費もいなくなり、便利になったのは間違いないのだが、同時に言葉で説明しにくい不満も次第に膨らんでいった。現状のデジタル技術によるコミュニケーションには、やはり不全感が残ってしまう。

建築を評価するうえでも、同様の問題が生じる。時間をかけてその場へおもむき、周囲も含めた環境を把握し、歩き回って空間を知覚する。それによって得られる建築についての情報量は、やはり紙やデータで提供される資料より、比べようもないほどに大きいのである。あらためてそんなことを意識した今回の審査であった。

なお、一般部門の入賞作品はいずれも木造の建築となった。ただし、もはや木造であることが珍しい時代ではなく、今回の審査でも木造ばかりを選ぼうとした意図はない。あくまで結果である。公共建築や商業建築も含む幅広い用途で、当

たり前のように木が使われるようになっている状況を反映してのことだろう。

同時に言えるのは、単純に木造という構造種別があるのではなく、多種多様な木の用い方があるということである。入賞した4作品を見ても、それぞれの設計条件を反映して、どの部分にどのように採り入れるのかのところで深い検討が行われ、独自の木造架構を実現している。木造に対する批評的な視点こそが、評価の際のポイントとなっているのである。

建築人賞 タクマビル新館（研修センター）



【選評】

鉄骨と木のハイブリッド構造を採用、耐火集成材柱や集成材マリオンを挟んだガラスのダブルスキンで四周を囲うことにより、これまでにない「木の高層建築」を実現している。その透明感はミース・ファン・デル・ローエが思い描いたガラスのスカイスクレーパーをも連想させる。CLT 耐震パネルを組み合わせたアイランド型コアを偏心させて置いたプランも効果的で、これにより向かい合わせにある既存本社から、ホワイエを行き交う社員の生き生きとした姿も眺められる。木の視覚的効果が、最大限に発揮された建築である。

設計／竹中工務店

施工／竹中工務店

建築位置／兵庫県尼崎市

竣工年月／2020年10月

用途／事務所

構造・規模／S+W造

地上6階

敷地面積／8,659.44㎡

建築面積／707.89㎡

延床面積／3,334.35㎡

写真／古川泰造

建築人 2021年7月号掲載

建築人賞 印南の廻楼



【選評】

西側が海へと開かれた崖の上に建つ。平面は正方形の中庭を囲む回廊形式をとる。東西両面に大開口をもつ主楼は、そのガラス扉を開放すると、エントランスからの視線が中庭とリビング・ダイニングルームを介して、その向こうの海まで貫通する。軸線のまっすぐ先は、冬至の日に太陽が沈んでいく位置を指し示している。夕陽の情景はさぞや感動的であろう。ひとつの小住宅であると同時に、天体の動きを観測する装置でもあるような、スケールの大きさを内包した作品である。

設計／岩田章吾建築設計事務所

施工／和田建設

建築位置／和歌山県日高郡

竣工年月／2021年7月

用途／個人住宅（別荘）

構造・規模／混構造

(RC造+木造)

敷地面積／541.64㎡

建築面積／307.39㎡

延床面積／285.01㎡

写真／緋田昌重

建築人 2021年11月号掲載

建築人賞奨励賞 ちえの森ちづ図書館

【選評】スギの名産地として知られる町に初めて実現した独立の図書館。明快な直線状の開架空間に、スギ材とスチールの合成トラスによる屋根が架かる。外部業者によるカフェや見栄え優先の巨大な書架といった、昨今の図書館建築トレンドに流されることなく、住民のアイデアをワークショップで取り込んで、地域が求める施設をしっかりとつくりあげた点を評価する。棚差と面陳に両対応する書棚など、図書館の本質的機能に即した家具の工夫もよい。

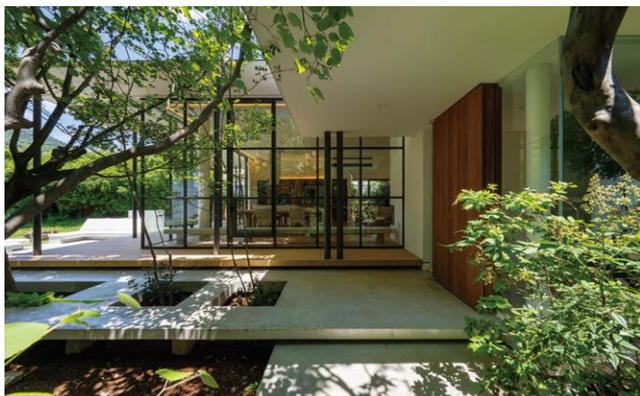
設計・監理／徳岡設計	建築位置／鳥取県智頭町	敷地面積／3,729.37㎡
施工／ジューケン・原田	竣工年月／2020年11月	建築面積／1,392.21㎡
特定建設工事共同企業体	用途／図書館	延床面積／1,176.06㎡
	構造・規模／S+W造	写真／徳岡設計
	平屋建	



建築人賞奨励賞 山芦屋の家

【選評】築地塀で囲まれた敷地に、昭和2年に建てられた山小屋風の蔵、コンクリート打ち放しのゲストハウス、新築の母家に分かれて建っている。3つの棟はそれぞれにまったく異なるスタイルを採りながらも、絶妙なアンサンブルで心地よい庭の景観をつくり上げている。これを最大限に採り入れるよう、母家では大きな開口を取り、アウトドアリビングも設けた。他では得難い邸宅の環境を、既存の建物資源を生かしながら、見事に達成している。

設計／マニエラ	建築位置／兵庫県芦屋市	敷地面積／1,075.99㎡
建築設計事務所	竣工年月／2021年2月	建築面積／1,074.01㎡
施工／笠谷工務店	用途／専用住宅	延床面積／444.80㎡
	構造・規模／母屋S造平屋	写真／下村康典
	車庫棟・蔵RC造2階建	



建築人賞佳作 ANNEX TSUTENKAKU TOWER

【選評】大阪の観光拠点として長く親しまれる通天閣の別館として、その足元に設けられた木造の商業施設である。1・2階の店舗面積を200㎡未満に抑えたり、3階を事務用途にしたりするなどの工夫で、木造の架構をそのままあわすことが可能になった。屈折した細長い敷地に並ぶ木の門型フレームは、物販の機能をうまく満たしながら、建築のアイデンティティをしっかりと主張している。都市部における木造建築の可能性を広げた建物だ。



設計／竹中工務店
施工／竹中工務店
建築位置／大阪府大阪市
竣工年月／2020年8月
用途／店舗・事務所
構造・規模／木造3階建
敷地面積／139.97㎡
建築面積／109.22㎡
延床面積／298.49㎡
写真／母倉知樹

建築人賞佳作 日本圧着端子製造大阪技術センター別館-Kahdeksankulmio-

【選評】敷地にあった旧建物を稼働させながら、その奥にわずか2m幅の路地を介して建設したため、大型の重機を使用しない小部材による木造が工法として選ばれた。八角形平面の小さな建物を連結した特異な構成が、施工のプロセスから導き出されたわかると納得がいく。制約が強い平面だが、内部には電子部品の試験装置が思った以上にうまく収まっている。旧建物の跡は緑地として整えられ、八角形のパターンが将来の増築可能性を暗示する。



設計／Atelier KISHISHITA
施工／フリースタイル
建築位置／大阪市西淀川区
竣工年月／2017年5月（建築）
2020年2月（外構）
用途／研究所
構造・規模／木造1階建
敷地面積／1,370.34㎡
建築面積／266.34㎡
延床面積／266.34㎡
構造設計／満田衛資構造計画研究所
設備設計／パルス設計
写真／絹巻豊

建築人賞佳作 姫路の家

【選評】高さが抑えられた建物が、敷地境界いっぱいには広がるように建ち、その中にモザイク状に外部空間が混じり込む。それぞれの部屋からそれぞれの庭が楽しめるようになっていく。また各部屋には広さと機能に応じた天井が架かっており、住宅の中に実に多様なシーンが展開する。朝昼晩、そして春夏秋冬、いついかなる時もこの家にいるのが楽しい。そんな住まいである。カーブした斜路によるアプローチも、気分を高めてくれそうだ。



設計／大西憲司設計工房
施工／アトリエ・エイト
建築位置／兵庫県姫路市
竣工年月／2020年10月
用途／専用住宅
構造・規模／木造（在来工法）地上2階建
敷地面積／484.02㎡
建築面積／245.35㎡
延床面積／264.89㎡
写真／福澤昭嘉

建築人賞佳作 4棟の家

【選評】シンプルな家形をとった4棟が連なり、一軒の住宅ながら、集落のような景観を形成している。外観の家形は軒の出やガラス面の表出を抑えることで抽象度が高まった。室内もミニマルなデザインが追求されているが、その一方で、クライアントの旧宅から柱梁・建具などを持ち込み、一部に再利用することで、固有の物語を重ねている。セメントの風合いを感じさせる下見板張りの外壁も、レンガ敷きの中庭外構とうまくマッチしてよい。



設計／コンパス建築工房
施工／ケイ・アイ・エス

建築位置／大阪府堺市
竣工年月／2021年5月
用途／専用住宅
構造・規模／木造2階建
敷地面積／482.86㎡
建築面積／232.69㎡
延床面積／259.26㎡
写真／岡田大次郎



北アルプスの麓、豊かな山々に磨かれた天然水を製造する工場。CO2排出量ゼロ、水循環再利用、地下水を育む森の整備保全など貴重な自然の恵みを磨くと共に、来場者に水の大切さに共感頂く体験を提供し、人と水の未来へ続く持続可能な社会づくりを目指します。清流を流れる水の音、水の始まりである空・雲、雨を受け止める森、工場のもづくり、水源の山を望みながら飲む天然水、地元との出会いなど、様々な景色や体験を紡いでいくことで、人と自然、山と工場、来場者と従業員・地域の繋がりを表出させます。ここでは建築は主役ではなく、北アルプスが育んだ豊かな自然やその恵みに気付くためのきっかけとして人々に寄り添います。(興津俊宏)

※
所在地：長野県大町市
用途：水工場
竣工：2022.01
構造規模：鉄骨造
地上4F
木造+RC造
地上1F他
敷地面積：406,290.81㎡
建築面積：27,644.38㎡
延床面積：42,020.48㎡
写真：母倉知樹
興津俊宏※



コンパクトで効率的・機能的を基本としつつ、安全・安心を追求した。接地階はヒューマンスケールで街路に開いたファサードを構成し、街なかのスケールに調和した親しみやすい入りやすい会議所を演出した。全体に清新さと上品さを備えることをめざした。市内の大学生提案を設計に採用すると共に、旧館照明を保存し村野建築の継承を図った。エントランスには酒樽・酒柵をイメージした木製棚を設置すると共に、床の構造材や間仕切壁一部にCLTを用いて、低炭素化にも配慮した。この建物が当会議所のスローガンである「輝くひとづくり ものづくり ことづくり まちづくり」の推進に寄与し、西宮市が職住近接でより暮らしやすい街へと発展することの一助となることを願っている。

所在地：兵庫県西宮市
 用途：事務所
 竣工：2022.03
 構造規模：S造 4階建
 敷地面積：1,614.04㎡
 建築面積：560.93㎡
 延床面積：1,948.75㎡
 写真：松村芳治



北堀江に位置する複合テナントビルの1F部分。NoHoと名付けられたこのカフェはニューヨークのSOHO（ソーホー）に由来する。絶妙な透け感を持つメタルファブリックを挟んだガラススクリーンをビルの低層階の新しいファサードとして提案した。雨でも利用できる心地よい屋外テラスとその奥に続くカフェは、入口を全開口することで一体に利用することができる。店内は開口部の高さを一つの基準ラインとし、その上部をスケルトンにすることで限られた空間を最大限に活かしている。木の素材感を基調にモルタルや鉄サビの質感を壁面に落とし込み、ソーホーにあるカフェのイメージを投影することができたのではないだろうか。

所在地：大阪市西区
 用途：店舗
 竣工：2022.05
 店舗面積：77.75㎡
 写真：松村 芳治

追悼

宮崎八郎名誉会長

宮崎八郎名誉会長が7月2日にご逝去されました。本会の発展に献身されたことに感謝を申し上げ、ここに哀悼の意を表します。



<職歴>

昭和31年 大阪工業大学建築学科卒業
昭和31年 (株)三座建築事務所入社
昭和42年 宮崎建築設計事務所開設

<本会役職歴>

昭和43年 入会
昭和52年 理事
平成5年 副会長
平成12年 第五代会長
平成20年 名誉会長

<受章歴>

平成4年 大阪府知事表彰
平成7年 建設大臣表彰
平成9年 黄綬褒章
平成17年 旭日小綬章



平成17年 赤坂御苑秋の園遊会 竹下景子さんと

第五代会長の主な功績

平成12年度

- 宮崎八郎新会長に就任
- 白石静二名誉会長に就任
- 特別準会員制度の創設
- 建築士会「住宅検査・保証制度」発足

平成13年度

- 個人会員の入会金制度の復活

平成14年度

- 創立50周年記念事業の実施
- 会員基金の創設
- シニアサロンの発足
- 地域サークルを8地域に拡大
- 応急危険度判定登録制度の発足
- 釜山建築士会と技術提携の再調印

平成15年度

- 在阪建築3団体(本会・事協・JIA)の会長・支部長会の発足
- ハウジングフェスタの実施

平成16年度

- 理事の責任と権限の明確化
- 財政健全化のための赤字事業の排除
- 評議員定数を90名から80名に減数

平成17年度

- 「建築人」の会報誌化
- 釜山建築士会創立20周年記念の交流

平成18年度

- 19年度のための機構改組の準備
- 大阪建築確認検査協会の設立支援
- 構造計算適合性判定機関の設立支援

平成19年度

- 運営、会員会勢、社会貢献、研修教育、建築情報の委員会構成に機構改組
- 専攻建築士部会の発足
- 大阪市より景観法第92条第1項に基づく景観整備機構の指定
- 特別準会員の拡大
- 顧問会議の設置

告別の辞



第七代会長 岡本森廣

人間 宮崎八郎氏を偲んで

宮崎名誉会長を失って胸に大きな穴が開き、またドカッと重いものを体に置いている今の私である。それ程に存在感があり頼り甲斐のある比類なき重鎮であった。宮崎建築設計事務所の創立10・20・30周年ごとに本会に寄附をされており、奇特な方と記憶していた。

本会の40周年時に初めてお会いし、50周年事業では副会長としてご一緒させていただき、氏の人生哲学や情の深く厚い人柄等に接して多様な薫陶を受け、私の生き方に大きな影響を与えていただいたと想する。また、本会を支援していただいている大樹会でもご一緒し、様々な方々に巡り合っただけで今がある。

氏は本会の困難な時期に会長に就かれ、既得権益の主張やあからさまな抵抗等にも怯まず、会費の値上げや委員の交通費縮減、機構改組及び事務局改編等に徹底した鉈を振るわれ実のある成果を挙げられた。当時の委員長に課題を与えられ、私も連合会・近建協・他団体との関係から過去・現況・将来を俯瞰したレポートを提出したが、これは今も活かしている。対外施策では大阪建築防災センター理事長就任、民間確認機関の統合団体の設立や当時の大阪府建築士事務所協会との統合問題にも真摯に向き合うリーダーシップを発揮され、先見の明があった方と敬仰している。日本建築士会連合会では筆頭副会長として全国の建築士会のあるべき姿を常に創造し続けた方であった。人脈においても評価の仕方やは格別なものを持って居られ、まだまだご教示いただきたかったことは数知れず残念である。優れた先輩を失った悲しみは深い、激変する困難に怯まず本会のブランドを高めるよう名誉会長に誓う次第である。

会長動静

- 6/27 スマートシテイ講習会
- 6/28 北海道建築士会会長、内山鑑定事務所と大災害時対応協議
- 6/29 近畿建築士会会長会議
近畿建築士会協議会
- 6/30 日本建築協会総会
- 7/ 1 本会創立70周年記念シンポジウム
全日本不動産協会大阪府本部長面談
- 7/13 箕面市副市長面談
- 7/14 日本建築士会連合会臨時正副会長会議(1)
- 7/15 日本建築士会連合会臨時理事会
臨時正副会長会議(2)
- 7/19 大阪府収用委員会
- 7/20 理事会、正副会長会議
- 7/25 豊能町長面談
能勢町長面談



左より 横田部門長、上田副会長、岡本会長、柿谷武志箕面市副市長



左より 坂田朗夫豊能町都市建設部長、川村哲也豊能町副町長、塩川恒敏豊能町長、岡本会長、濱田副会長、昇委員、山添専務理事



左より 馬瀬師彦能勢町産業建設部長、上森一成能勢町長、岡本会長、濱田副会長、昇委員

7月度 理事会報告

日時 7月20日(水) 16:00～18:00
場所 本会会議室
出席 理事 43/48名 監事 2/2名

【会長のあいさつ】

- ・石貫方子副会長の国土交通大臣表彰の受章に祝意を表しました。
- ・府内市町村の首長面談で委員派遣協力や広域災害調査の実施などをアピールして行政に本会活動に理解を得ている旨を報告しました。
- ・連合会の各種委員会に本会からの推薦者8名全員が就任したことを報告しました。

(1) 入退会の承認

(人)	7月	入会	退会等
正会員	2,393	4	12
準会員	34	0	1
特準会員	25	0	0
賛助会員	139	0	0
計	2,591	4	13

(2) 会計報告

(円)	6月計	累計
収入	6,324,728	60,988,390
支出	11,812,161	35,287,357
差引	△5,487,433	25,701,033

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 住宅紛争処理支援セミナーの実施

住宅の紛争処理の相談業務に係る建築士会員のスキルアップを目的として、住宅リフォーム・紛争処理支援センターと連携し、連合会の経費負担によるセミナーを実施することを承認しました。

連合会とセンターと建築士会による意見交換会に関係部門長等が出席し、弁護士会のADRや裁判所の調停委員の経験者を交えて準備を進めます。

(4) 「ミライREBORNスマイ」プロジェクト

本会は、全日本不動産協会が大阪・関西万博に出展参加するためのアドバイザーとして理事を派遣しており、6/17に大阪

パビリオン出展参加の正式決定を受け、子育て世代が魅力を感じ健康な生活ができるミライのスマイをコンセプトにした標記コンペを主催する協会から本会に共催依頼があり、これを承認しました。コンペは学生と若手建築士の2部に分け、当選案は専門家と共創したVR・XR対応の映像コンテンツを大阪パビリオンのメタパス上で展開する構想です。

(5) 賛助会員のPR動画

賛助会員による理事会でのプレゼンの動画をホームページ上でも公開し、賛助会員のメリット拡大を図ります。年間9回のPRを全て掲載し、アーカイブ保存期間を含めて2年間閲覧できる仕組みです。

(6) 会員アンケート結果

IT促進委員会による会員向けアンケート結果の分析を行い、特に委員会活動に興味を抱く会員には関係部門から連絡を取り、活動力のある委員を増強して活性化を図ります。

石貫方子副会長が国土交通大臣表彰を受章

石貫方子副会長（パナソニックハウジングソリューションズ株）が7月11日に国土交通大臣表彰を受章されました。

石貫副会長は、平成9年に入会し、平成10年に大阪府近代和風住宅調査に参加、平成14～18年に交野市立交野小学校、岩船小学校で総合学習を指導する地域活動に貢献し、平成15年に理事に就任後も本会主催の各種セミナーの講師を務められています。

平成29年に副会長に就くとともに女性委員会30周年記念事業の「建築女子のきずく未来」で斯界の女性100人を集めたワールドカフェの開催を主導するなど、女性建築士の視点から安心安全な住宅の啓発や女性建築士の働き方改革の提言をはじめ、建築士の技術向上のための研修活動はもとより、社会貢献活動にも力を注いで今日まで実践されています。

『歴史的建造物をめぐる動向』～行政による取り組みと民間の動き～

日程：令和4年6月20日(月)

会場：大阪府建築士会 東会議室

参加者：43名

事業部門女性委員会では、新入会員歓迎企画セミナーとして、本会副会長で京都大学大学院教授の中嶋節子先生をお迎えいたしました。先生に於かれては、豊富な知識を少しでも多く伝えようとしていただき、2時間いっぱい休むことなくお話いただきました。

文化財建造物保護の歴史は、明治4年(1871年)の日本における文化財保護法令の先駆けである「古器旧物保存方」の布告に始まります。背景には、神仏分離令による廃仏毀釈の進行が歴史ある寺院の仏像、古文書、建造物、美術品などの大量の破壊や海外流出を引き起こしたことが挙げられます。明治30年(1897年)には、「古社寺保存法」が公布され、近代的な文化財建造物保存修理が本格的に開始されますが、400年前の社寺が対象でした。それが、昭和4年(1929年)「国宝保存法」公布により、社寺の

他、個人や公共団体の建物までが対象となりました。

戦後は、文化財概念の拡大と多様化が進んでいきます。昭和25年(1950年)「文化財保護法」により、「文化財」という用語がはじめて登場しました。これは昭和24年1月26日におこった法隆寺金堂壁画の焼損が契機となっています。昭和50年(1975年)の改正では、戦後復興、高度成長期の国土開発によって、普通の暮らしや住まいが失われていくことに気付き、住民運動、地方自治体からのアクションで、伝統的建造物群保存地区制度ができました。平成8年(1996年)の改正では、原則建築後50年を経過した地域の身近な歴史的建造物を登録する「文化財登録制度(建造物)」が、平成16年(2004年)の改正では、「文化的景観の保護制度」など、改正や見直しが進み、その他文化財制度以

外の歴史的建造物へのアプローチとしては、「古都保存法」、「景観法」、「歴史まちづくり法」が作られています。

最後に、大阪や京都の近代建築の活用、リノベーション事例をご紹介いただき、歴史的建造物の可能性の高まりと、リノベーションによる魅力の向上を感じました。

「建築士は古い建物に価値を付加できる職能を持っています。」と、期待の言葉で締めくくられました。



竹田敦子(理事)



建築相談室から(64) 分譲マンションの相談(2)

先月に続いて、建築相談に寄せられた分譲マンションの相談をご紹介します。先月は典型的な相談のご紹介でしたが、今月は変化に富んだ相談をご紹介します。

この工事は適正か?

マンション相談に限らず建物相談の定番です。「屋上の防水やり替えを大規模修繕工事前に行う提案があった。●●という工法をいわれているが、それでいいのか?」もっとも●●という工法は間違いがないのでしょうか、屋上防水のやり替えをしないとイケないかどうかの判断が正しいかどうかということから見直す必要がありそうです。

「エレベーター保守点検の提案があったが高いと思う。それが適正か?」金額の多寡もさることながら、それが必要な工事かは一回の電話だけでは判断できません。こういったところに相談に乗る長く付き合えるコンサルタントが求められます。

大規模修繕工事にまつわる「何の相談?」

「大規模修繕にあたり大阪府の設計監理コンサル会社に問い合わせ1社に絞った。契約書は無く理事会の決議があれば口頭でよい、それが業界の常識だ、といわれて戸惑っている」という相談ですが、なんと広島県福山市のマンションからの相談。「7年前の大規模修繕の仕上がりが悪く、大規模修繕委員をしていた相談者の配偶者も当時のコンサルタントも問題ないと言われた。管理組合も取り合ってもらえず契約書すら見せてもらえない。どうしたら良いか。」夫婦間の問題なのか、区分所有者と管理組合間の問題なのか、なんだかよくわかりません。

機械式駐車場の根深い問題

「機械式駐車場の空きが多い。パレットに物置をおかないか?という提案があったが問題ないのか?よそに事例もあるから大丈夫というが心配」「立駐のメンテナンス費用が

ないので駐車場を廃止にしたいが可能か?事前に、役所に相談したら条例で●台は必要だが、強くは言えないと言われた。」という相談は、いずれも大阪市内。近年の傾向として都心の便利なところは、立体駐車場に空きが出てきて、メンテナンス費用がまかなえなくなっているところが多くなっています。一方で郊外のマンションでは、近隣の平面駐車場より高額な利用料では割に合わず、空きが増えていることもあります。駐車場は附置義務条例で新築時に設置が義務づけられるものの経年とともに需要と供給のバランスが崩れてお荷物になるケースがよく見られます。

マンションの相談窓口

本会社会貢献部門にはマンション維持管理支援委員会があります。分譲マンションの相談は、マンション維持管理支援委員会と連携を取りながら対応をしています。

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)



【建築で人と人をつなぎ、新たな価値を共に創り出す】

- 会員と地域社会が共に協力し、安全・安心の推進やまちづくりの活動を支援
- 会員同士の連携により建築の知識、技術力の向上と職業倫理の醸成
- 会員の協働により社会ニーズに対応した業務を受託

I ビジョンの目的と理念

公益社団法人 大阪府建築士会（以下、「本会」。）が SDGs（持続可能な開発目標）を具現化し、公益法人に相応しい活動を行うため、2025 年に向けてのビジョンを明確にするとともに、その基本方針と具体的な取り組み項目を定める。

1. 建築士の品位の保持および社会的地位の向上を目指す上での職業倫理の向上、次世代人材の育成、建築、都市を通して地域社会および行政、他団体との連帯によるインクルーシブ（包摂的な）環境創出を推進する。さらに、国際化への対応や情報化、建設 DX の普及推進を加速して実用化、合理化による業務の抜本的改革を目指した検討を進める。
2. カーボンニュートラルに向けた取り組みを加速して、省エネ、創エネに関する建築技術、循環型社会構築のためのシステムなどの研修を行うことで理解を深め、技術向上に努め、政策・制度の周知連絡を強化してグリーン建築の普及、促進を行う。
3. 市民の財産と命を守る安心安全な建築・都市環境を実現するため、快適でレジリエントな（回復力のある）まちづくりと耐震性、耐久性に優れた長寿命な建築創りに向けた取組みを推進する。加えて人生 100 年時代を支える住まい環境整備を喫緊の課題と捉えて、子育て支援、生涯住宅に関する技術の普及開発に尽力する。

II 基本方針

ビジョン達成のため、以下の基本方針を設定する。

1. 安定的な組織運営基盤の確立

採算性に着目した既存事業の見直しに加え、行政等からの新規受託事業の拡大をはじめ、多様な会員制度の創設など新たな歳入確保に努め、組織の基盤となる財政を安定的に運営する。

会員の確保は財政的基盤の強化、組織の活性化、地域社会における本会活動を支える礎であり、最優先の課題として取り組む。

2. 若手建築士の確保と人材育成

将来の建築士となる人材への認知度を高めるため、大学、専門学校、工業高校等との連携を一層強め、学生時代より、本会活動の場を積極的に提供する。

また、入会間もない会員に対し、積極的に委員会活動への参加を勧誘するとともに、若手建築家に活躍、参加の場を提供とフォロー体制を構築する。

3. 関係団体の連携強化と相互の会員の交流

建設、構造、設備、材料などの建築関係団体に加え医師会、弁護士会、不動産など他業界を含めた団体との一層の連携を図る。これにより各団体の会員相互の交流促進を図る。

4. 国際交流と外国人活躍の促進

これまで、釜山、上海、香港との各都市の建築関係団体との交流協定を締結しており、これを基盤として、さらなる国際交流の促進を図る。また、国際化の中で我が国において外国人が活躍できる環境整備を図る。

5. 受託業務と交流機会の提供

受託事業等をビジネスとして会員に協働により担う機会を積極的に提供する。

多様な人材の交流を促す場（委員会活動等）の提供により、新たな価値を生み出す触媒としての役割を果たす。

6. 情報発信の拡大と手段の多様化

「建築人」、「ホームページ」の情報量の拡大とよりきめ細かな情報提供を図るとともに、会員・非会員の差別化を図る。

SNS を活用し、研修、講演会など情報をタイムリーで迅速に提供を図るとともに、双方向の情報発

信によるリスクにも対応できる体制を構築する。

7. IT化のさらなる推進

事務局を含めたIT基盤整備にかかるロードマップを作成し、必要なハードとソフトに係る必要な予算を計画的に確保する。

III 具体的な取り組み項目

1. 会員確保

(1) 会員サービスの向上・メリットの充実

本会ホームページに会員専用ページを設け、デジタルアーカイブを含めたよりきめ細かなコンテンツの提供を図る。また、年1回の会報の特集号による情報内容の充実を図る。

受講料についてはCPD単位を付与する事業の統一を図るとともに、会員と非会員のより明確な差別化を図る。

行政に対し、総合評価型一般競争入札制度におけるCPD導入の働きかけをさらに進め、そのメリットの強化を図り、普及促進を図る。

(2) 会員フォロー制度の充実

入会間もない1~2年目の若手会員を対象に無料の現場見学会、研修会等の開催、建築倫理教育やベテラン建築士の相談を受けることができる(メンター)制度を設け、フォロー体制を設ける。

また、会員の多様なニーズに対応できるよう、開業・顧客獲得・経営や設計・施工・監理に至るまでの総合的かつ一貫性のある相談体制の構築を進め、会員サービスの高度化を図る。

(3) 多様な会員制度の創設

ヘリテージ活動や地域のまちづくり活動に参加する建築士以外の市民等、多様な人材を受け入れることができる新たな会員制度((仮称)市民会員制度)を創設する。

(4) 学生へのアプローチ

将来、会員となることが期待される学生へのアプローチをこれまで以上に強化するため、著名建築家に講演の開催、将来独立を目指す学生向けにセミナーを学校に出向いて行う。

2. 国際交流の拡大と外国人材の育成

さらにASEAN諸国をはじめとする海外の都市との協力協定の締結を進める。また、インドネシア政府からの若手人材の研修生の受け入れなど相互理解と我が国で活躍できる人材育成のための研修事業を実施する。

3. 災害対応の能力の強化

被災建築物応急危険度定士に対して、広域災害調査技術者となり、損害調査業務を担う人材育成のさらなる増強を図り、災害対応能力強化を図る。

4. クラウドファンディング等を活用した地域の景観(ランドスケープ)まちづくりの支援

ランドスケープをはじめとする地域貢献まちづくり活動に助成のため、全国の建築士会に先駆けて実施したクラウドファンディングの検証を踏まえ、必要な改善を図りつつ、支援を継続する。

5. SNS活用ガイドラインの創設と運営責任者の指名

LINE、ツイッター、インスタグラムなどのSNS活用ガイドラインを定め、運営責任者を指名し、事前に発信内容のチェックを行う。万一、社会的批判にさらされた場合の対応について事務局とともに検討する。

6. 委員会活動における収支改善と活動内容の精査

各委員会活動においては部門長及び委員長が採算性を十分精査し、予算との進捗を管理する。また、その活動の目的を具体化し、類似事業の重複を避けるとともにスケジュール管理を行う。

収支改善が見込めない、事業内容が重複する場合は、検証の上、活動の休止、若しくは統廃合を行うとともに時代にふさわしい事務局体制への見直しを行う。

7. 受託事業等におけるビジネスチャンスの提供

多様な社会ニーズに対応するため、受託事業や書籍出版において会員の参画をできる限り募り、会員のビジネスチャンスの提供を図るとともに、本会の財政的見地も考慮の上、その内容、規模等を勘案し必要な経費を計上する。

IV 推進体制

各委員会において本ビジョンを行動指針として共有し、その進捗状況について部門長を通じ、正副会長会議、運営部門会議、理事会に定期的に報告を行い、そのフォローアップと評価・検証を行う。

Information

建築士会からのお知らせ

本会主催の講習会等では座席の離隔距離確保等の新型コロナ感染防止対策を行います。受講者におかれましてもマスク着用、手指のアルコール消毒等のご協力をお願いします。

感染状況によっては延期、中止となる場合がありますので、最新情報は本会HPでご確認ください。本会以外の事業は主催者にお問い合わせください。

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

令和3年6月1日より、広域緊急交通路沿道ブロック等耐震化促進事業（補助金）における耐震評価機関となりました。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞご利用ください。

(業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価 等
(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

令和4年度監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)
9/2、11/9、1/20、2/17、3/16 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。

日時 9/2(金)、11/9(木)、1/20(金)、2/17(金)、3/16(木) 8:55~17:00
会場 本会会議室
定員 各回20名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015/2015-07-28-2.html>

大阪府知事指定講習

2022年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
8/3 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。

日時 8/3(水) 9:30~16:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 大阪メトロ「谷町四丁目」下車
定員 40名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円
(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)
※受講料及びテキスト代金は、事前にお振込み願います。その際振込手数料もご負担願います。

大阪府知事指定講習

2022年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》
10/12・12/14 CPD各5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。)

日程 ①10/12(水)、②12/14(水)
時間 10:00~15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 大阪メトロ「谷町四丁目」下車
定員 各40名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,300円
(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

※受講料及びテキスト代金は、事前にお振込み願います。その際振込手数料もご負担願います。

令和4年度建築士定期講習

8/19、10/20、11/18、12/16、1/19、2/7、3/2 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成31年度・令和元年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼対面講義
日程・会場・定員
※8/19(金) 大阪国際会議場 200名
10/20(木) 大阪YMCA会館 100名
※2/7(火) 大阪YMCA会館 100名

▼DVD講義

日程・会場・定員
※11/18(金) 大阪府建築健保会館 50名
※12/16(金) 大阪府建築健保会館 50名
1/19(木) 大阪府建築健保会館 50名
※3/2(木) 大阪府建築健保会館 50名
時間 9:15~17:00(各講習日共)
受講料 12,980円(消費税含。事前振込)
申込方法
申込用紙を建築技術教育普及センターHPからダウンロードしてください。(平成31年度・令和元年度受講者には、同センターから直接申込書を郵送しています。)
ご記入後、大阪府建築士会事務局又は大阪府建築士事務所協会事務局へ持参していただくか、簡易書留にて郵送してください。
受付場所(送付場所)

※印の日程 大阪府建築士会事務局
※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

注)各回定員に達し次第、受付を終了します。
▼建築技術教育普及センターHP
<https://www.jaeic.or.jp/koshuannai/teiki-koshu/kteiki/kt-koshujisshi2021.html>

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習8/25、10/27 CPD各5単位
更新講習2/22 CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。なお、2019年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習(DVD)
日時 8/25(木)、10/27(木)
9:30~17:00
会場 本会会議室
定員 20名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,450円
郵送申込22,000円

▼更新講習(DVD)
日時 2/22(水) 13:30~16:50
会場 本会会議室
定員 20名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込17,000円
郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

高耐力接合金物+構造計算が開く「木造の新時代」の提案!「トラス構造工場見学」

(木材の強度を最も効率的に発揮するのはトラス構造)
8/27 CPD3単位

鉄骨造にかわる木造大空間の実現をテーマに、テックワンP3の自立フレーム架構/LVLトラス構造についての解説座学、さらに大断面構造用集成材と高耐力接合金物「テックワンP3+」による20mの片流屋根自立フレーム架構による40m×70mの工場とLVLトラ

スと2×4壁式構造による18m×36mの木造倉庫を見学していただきます。

日時 8/27(土) 14:00~17:00
会場 丹波篠山市民センター2F 催事場
(㈱岡本銘木店丹波篠山工場)
講師 ㈱飯野建築工房
代表取締役 飯野高明
(㈱木構造デザイン)
代表取締役 福田浩史
取締役 松岡忠生
(㈱タツミ 角田和裕)
住友林業(株)
木構造推進室 藤川光洋

定員 30名
参加費 会員1,000円 会員外1,500円

茶室について学ぶ

~近世数寄空間と煎茶室~
9/3 CPD2単位(予定)

茶室をテーマに、大阪電気通信大学教 矢ヶ崎善太郎氏を講師に迎え、近世の数寄空間と煎茶室についてお話しいたします。
日時 9/3(土) 15:00~17:00

会場 本会東会議室
講師 矢ヶ崎善太郎
参加費 会員1,500円 会員外2,000円
学生・本会新入会員(2020年以降入会)無料
令和2・3年合格者会員 無料
令和2・3年合格者会員外1,500円
定員 40名

建築相談委員会 住宅を設計する仲間達分科会企画勉強会 魅力あるWebデザインとは

9/15 CPD2単位(予定)

大阪・熊取町を拠点にWebをはじめ、あらゆるデザイン分野で活躍する(株)スピカートの細尾正行氏をお迎えし、現在におけるWebサイトの役割や傾向、SNSの活用法、Webサイトによるブランディング等々、興味深いお話や知っているようで知らないWebデザインのあれこれをお話いただく企画です。また今回の講師は建築関連事務所や企業のデザイン実績も豊富ですので、自社のホームページについて新規製作や改定を検討中の方や、上手くホームページを活用できておらずにお困りの方なども良いヒントに出会う機会になるかと思えます。気軽にご参加ください。

日時 9/15(木) 18:30~20:00
会場 本会会議室
講師 (株)スピカート代表取締役
細尾正行
参加費 会員1,000円、会員外1,500円
定員 25名(定員に達し次第締切)

建築士・市民にとって 「団地」から考える建築・まちづくり 9/26 CPD2単位(予定)

住宅文化をリードし、景観やまちを形成してきた団地やその取組について勉強し、まちづくりの担い手としての建築士、市民の方にとって、今後の建築・まちづくりを考えます。
日程 9/26(月)
時間 18:30~20:00(受付18:15)
会場 大阪府建築士会会議室
参加費 500円
定員 30名(申込先着順)
詳細はチラシ参照

第8回 国際茶楼 JICA関西訪問 Vol.2 「いま我々にできること〜海外に目を向けて」 10/29 CPD2単位(予定)

日本は今や国内のみを見ては経済活動・技術発展や向上、人的ネットワークの構築等は考えられない状況です。また組織においても高齢化が進み、人的活用として海外に目を向けることは重要です。このような時にJICAの活動に目を向け我々の取組めることを改めて考えればと思います。
プログラム: 昼食
: 講演1 JICAについて
: 講演2 海外協力隊OBによる活動紹介、体験談等
: 人と未来防災センター見学(自由参加)

☆JICA関西食堂で大好評の日替りエスニック料理等を楽しみましょう。
日時 7月31日(金) 12:00~16:00
集合場所 JR灘駅 11:45
会場 JICA関西と周辺
定員 25名(申込先着順)
参加費 会員3,000円 会員外3,500円
(JICA関西食堂昼食代) 学生・大阪府建築士会新入会員(2020年度以降入会):無料!(昼食代は実費)
懇親会 場所:三宮
会費:4,000円(予定)
(コロナ禍により中止する場合があります。)

事務局からのお知らせ

夏季休業のお知らせ
下記日程を夏季休業とさせていただきます。
8/12(金)~8/15(月)

行政からのお知らせ

EV充電設備の導入を支援する補助金のご案内

大阪府では「電気自動車用充電設備導入支援補助金」の募集を開始しました。本事業は、大阪府民が利用する駐車場に充電設備の設置を促すことにより、電気自動車(EV)等を利用しやすい環境を整えて普及を促進することで、自動車から排出される二酸化炭素の削減を目指しています。
■補助対象となる充電設備
経済産業省「クリーンエネルギー自動車・インフラ導入促進補助金」に基づくもののうち、「商業施設及び宿泊施設等への充電設備設置事業(目的地充電)」の交付決定を受けたもの
※府補助額は、充電設備購入費に係る国補助額の二分の一です。
※工事費は府補助金の補助対象外ですが、国補助金で対象となります。

■補助対象となる施設の例
商業施設・宿泊施設・遊戯施設・観光施設・公共施設・飲食施設の利用者が使用する駐車場、時間貸し駐車場(個人宅や従業員専用駐車場等、特定の利用者しか利用できない駐車場は対象外です)
■申請受付期間 11/11(金)まで
■詳細は、下記URLにてご確認ください。
URL: <https://www.pref.osaka.lg.jp/eneseisaku/juuden/>



令和4年度岸和田市空き家リフォーム事業補助金の交付

申請受付期間 5/9~12/23
受付場所 岸和田市役所別館2階
まちづくり推進部住宅政策課
補助金交付戸数 3戸(申込先着順)
補助金額 空き家リフォームに要する費用の10分の7(上限60万円)
補助対象空き家
木造又は混構造のもので、補助要件に該当するもの
補助対象者
補助対象空き家を所有等し、市外からの転入を予定(市外に3か月以上居住しているものに限る)しており、補助事業の完了時に補助対象空き家の所在地に住居登録することのほか対象要件に該当する個人
問合せ 岸和田市まちづくり推進部
住宅政策課 住宅政策担当
TEL 072-447-6513(直通)

その他のお知らせ

被災建築物の応急危険度判定(養成)講習会

8/23、10/21、12/19、2/14 CPD各3単位

地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。
日程 8/23(火)、10/21(金)、12/19(月)、2/14(火)
時間 受付12:30~、講習13:10~17:00
会場 大阪府建築健康会館6階ホール
定員 各回80~150名
(新型コロナウイルス感染状況により調整)
受講資格 大阪府内在住または在勤の一級建築士、二級建築士、木造建築士並びに建築基準適合判定資格者及び特定建築物調査員
受講料 無料
テキスト代 1,600円(税込)
申込・問合せ 一般財団法人大阪建築防災センター企画耐震部
Tel.06-6942-0190

第6回片岡安賞(日本建築協会論考コンクール)

10/31締切

(一社)日本建築協会では創立100周年を機に、独自の事業として、いわゆる学術論文とは一線を画す「論考」コンクールをスタートさせ、今年で第6回を迎えます。
募集テーマ
「ジェンダー平等」が変える建築の未来像「ジェンダー平等の達成」が拓く未来に向けて、建築の分野はどのような形で貢献できるのか。
建築関係者のみならず、テーマに関心がある方々からの多数の応募を期待しています。
審査委員会
委員長 高田光雄(京都美術工芸大学教授、京都大学名誉教授)
審査委員
倉方俊輔(大阪公立大学教授)
弘本由香里(大阪ガスネットワークエネルギー文化研究所特任研究員)

応募条件

投稿料無料。応募者の国籍、年齢、所属不問。応募論考は単著、共著不問。応募論考は未発表のものに限る。ただし、日本建築協会誌「建築と社会」に掲載された記事の改稿による論考は可。使用言語は日本語に限る。質問不可。受賞者は日本建築協会会員になること。
著作権・版権
著作権は応募者に帰属する。ただし、日本建築協会にかかわる出版・印刷においては、日本建築協会が自由に使用することができるものとする。
執筆要領 文字数は6,000字程度

応募方法

必要事項を記入した応募用紙とともに担当窓口へメール送付もしくはA4サイズに印刷したものを郵送。応募用紙は日本建築協会HPからダウンロード。
応募締切 10/31(月)(消印有効)
(電子投稿の場合23:50)

特別展「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」 (大阪市立美術館)7/16~9/25

17世紀のオランダ絵画の巨匠ヨハネス・フェルメールの《窓辺で手紙を読む女》は、窓から差し込む光の表現、室内で手紙を読む女性像など、フェルメールが自身のスタイルを確立したといわれる初期の傑作です。本作品は、1979年のX線調査で壁面にキューピッドが描かれた画中国画が塗り潰されていることが判明し、長年、その絵はフェルメール自身が消したと考えられてきました。しかし、その画中国画はフェルメールの死後、何者かにより消されていたという最新の調査結果が、2019年に発表されました。本展では、大規模な修復プロジェクトによってキューピッドの画中国画が現れ、フェルメールが描いた当初の姿となった《窓辺で手紙を読む女》を、所蔵館であるドレスデン国立古典絵画館でのお披露目に次いで公開します。(東京、北海道、大阪、宮城を巡回。)所蔵館以外での公開は、世界初となります。加えて、同館が所蔵するレンブラント・ファン・レイン、ハブリエル・メツ、ヤーコブ・ファン・ライスダールなどオランダ絵画の黄金期を彩る珠玉の名品約70点も展示します。
会場 大阪市立美術館
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
(天王寺公園内)
会期 7/16(土)~9/25(日)
時間 9:30~17:00(入館16:30まで)
9/3、10、17、23、24は9:30~19:00
入館は18:30まで)
休館日 月曜(7/18、8/5、9/19は開館)、7/19
観覧料 一般2,100円 土日祝は予約優先制
(8/12、15、9/20、21、22を含む)
問合せ 大阪市総合コールセンター
なにわコール 06-4301-7285



ヨハネス・フェルメール《窓辺で手紙を読む女》(修復後)1657-59年頃 ドレスデン国立古典絵画館 © Gemäldegalerie Alte Meister, Staatliche Kunstsammlungen Dresden, Photo by Wolfgang Kreische

一九五〇年代モダニズム建築の切り拓いた世界

津田塾大学図書館 一九五四年

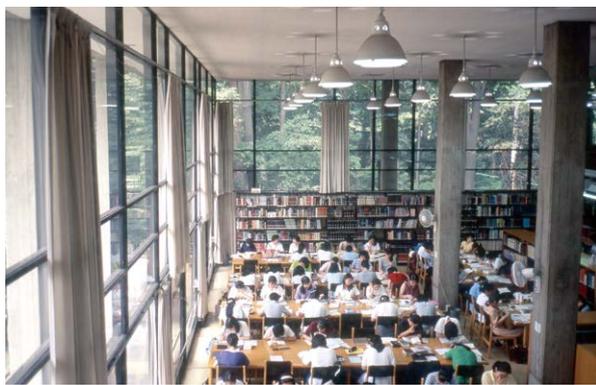
文・写真 松隈洋 [京都工芸繊維大学教授]

時が経つのは早い。けれども、一九九四年七月、東京都小平市の玉川上水沿いにある津田塾大学キャンパスの図書館を初めて訪れた際の印象は今も忘れがたい。早朝にもかかわらず、多くの学生たちが机に向かい、黙々と勉強に励んでいる。そこに漂うアカデミックな緊張感と、それを包み込む空間の透明感、周囲に広がる木々の緑が一体となって、清新な雰囲気満たされていた。そして、丹下健三（一九一三〜二〇〇五年）の設計により一九五四年

に竣工した当時とほとんど変わらない生き生きとしたその姿に、一九五〇年代前半期のモダニズム建築が持ついる、みずみずしい時代精神のようなものを感じたのだ。実は、この見学の背景には、にわか起きていた戦後建築をめぐる危機的な状況があった。前年の一九九三年六月に前川國男の神奈川県立図書館・音楽堂（一九五四年）の再整備による取り壊し計画が公表されて議論を呼び、坂倉準三の神奈川県立近代美術館（一九五一年）や大



南側からの外観。一九九四年七月一日撮影後に耐震改修と増築が施されて今も現存する



2階ロビーから1階閲覧室を見下ろす

江宏の法政大学（一九五三〜五八年）の存続が危ぶまれるなど、改めて戦後の近代建築のもつ意味と価値が問われていた。そのことから、『建築文化』一九九四年九月号で、「戦後近代建築との対話」という特集が急きよ組まれ、監修者として企画に関わる中で、竣工時に、『新建築』一九五五年一月号の表紙を飾ったこの図書館の写真に強く惹かれ、関係者と現地を訪ねたのである。同号には、丹下の木造の自邸や清水市庁舎、外務省計画案と共に、この図書館が大きく紹介された。続くページには、丹下や坂倉準三、武基雄、吉原慎一郎を抑えて指名コンペに当選して実現した前川國男の神奈川県立図書館・音楽堂も掲載されていた。だが、「美しきもののみ機能的である」と謳われた丹下の論考や、編集長・川添登（一九二六〜二〇一五年、ペンネーム岩田知夫）の作家論「丹下健三の日本的性格」が誌面に並び、編集後記に、「近代建築と伝統」と明記されたように、敗戦から十年、改めて日本の伝統とどう向き合うのか、に焦点が当てられていたことがわかる。

注目したいのは、そのような伝統論争を喚起する論考の並ぶ誌面の中で、この図書館のページには、そうしたテーマにはまったく捉われず、突き抜けた明るさを感じられることだ。設計チームを務めた神谷宏治（一九二八〜二〇一四年）は、設計意図について、次のように記している。

「私たちが、この計画の過程で意図したものは、いわば、近代建築におけるスペースのあり方についてである。（中略）ここにあるのは、煉瓦やコンクリートの壁ではなく、校庭の緑の壁である。

読書スペースが建物の外へ流れ、自然の中に拡げていくことによって、そこにより暖い豊かさを与えたかった。室内についても、玄関ホール、カタログ室、新聞雑誌室等の間に、壁を置きたくなかった。それらは、連続し、流動する一体のスペースとして考えられている。本を読む人にとって、玄関のアプローチから閲覧室に至るそれぞれの行動は、心理的にも決して不連続なものではない。そしてまた、それぞれスペースにいるひとりひとりとは、おたがいにつけて無関係な個ではなく、人間としてのなんらかの意識によってつながりあつて行くはずのものである。私たちは、スペースの含むものとして、このような人と自然、人と人という外向性と、内向性とを同時に共存させながらも、そこにおのずから生れるひとつの秩序を見出したかった。」（『新建築』一九五五年一月号）

ここで神谷が記すのは、どこまでもスペースのあり方にかかわる設計の方法論への関心に基づく、空間の連続性による人と自然、人と人との一体感を醸し出す秩序の発見というテーマである。そして、自然に恵まれ、武蔵野の緑に包まれたキャンパスの風景を前に、建物から壁を取り除き、読書スペースが、「校庭の緑の壁」へ向って流れるように開かれていく空間構成を求めたのだ。そのために、ル・コルビュジェの提示した鉄筋コンクリートの構造体による空間概念のモデル、「ドミノ」そのままに、細い独立柱に支えられた三枚の床スラブと、「緑の壁」を室内へと取り込む全面ガラス張りのスチール・サッシュが四周を囲むシンブルな構成からできている。そのどこにも日本の伝統への言及はない。竣工時に二十六歳の丹下研究室の大学院生だった神谷は、何を求めたのだろうか。私事ながら、筆者は、晩年の神谷から学生時代の話を聞く機会があり、機会あって拝見した当時の写真には、横文彦（一九二八年〜）ら東京大学建築学科の同級生たちと五月祭の時に制作したフィリップ・ジョンソン（一九〇六〜二〇〇五年）のガラス・ハウス（一九四九年）の巨大な模型が写っていた。横の回想によれば、模型の上手な神谷が中心になったという（横文彦『建築から都市を都市から建築を考える』岩波書店二〇一五年）。

このエピソードから見えてくるように、当時の学生たちは、ヨーロッパから重心が移ったアメリカ建築の最新動向に強く惹かれたに違いない。おりしも、戦争を挟んで一九五〇年に復刊された『国際建築』には、ガラス・ハウスの他にも、イームズ夫妻の家（一九四九年）、ミス・ファン・デル・ローエ（一八八六〜一九六七年）のファズワース邸（一九五〇年）などが、次々に紹介されていく。たしかに、戦間期の一九二〇年代に、ル・コルビュジェやワルター・グロピウスらによってヨーロッパで産声を上げたモダニズム建築の試みが遠く離れた日本で本格的にスタートするのは、日中戦争下の一九三七年以来長く続いた建築資材統制が全面解除された一九五〇年のことである。それからわずか数年、敗戦後の厳しい状況下から、初めて鉄筋コンクリート造による建築が実現可能となる中で、この図書館には、先進的な建築への憧れと初発の喜びが込められていたのだと思う。その輝きは今も変わらずにそこにある。



soroeは削ぎ落とされた「面」によって空間を整えるコレクションです

soroe



東庭の光を取り込む障子と床の間を見る



キッチンからダイニング・リビング・子供室方向を見る